

(一般質問)

質問日	令和3年12月1日(水)		質問方式	分割方式			
質問順位	2	会派名	自由民主党浜松	議席番号	16	氏名	井田 博康
表題	質問内容						答弁者の職名
1 学校施設について	<p>文部科学省が初めて行った「学校施設におけるバリアフリー化の状況調査」の結果では、令和2年5月時点において、全国の公立小・中学校校舎の3割以上に車椅子使用者用トイレがなく、7割以上にエレベーターがないことが発表された。同省は災害時の避難所になる学校も多いことも踏まえ、令和7年度までの整備目標を定め、自治体への補助も拡充としている。</p> <p>本市においても学校施設のバリアフリー化を促進しなければならないと考える。</p> <p>また、学校に通う児童・生徒は教科書やノート・教材などに加え、タブレット型パソコンも机に置く場合があり、机が小さくて苦勞しているという問題もある。</p> <p>そこで、以下2点伺う。</p> <p>(1) 小・中学校の校舎や屋内運動場への車椅子使用者用トイレとエレベーター設置を含めたバリアフリー法改正に係る本市の対応について伺う。</p> <p>(2) タブレット型パソコン一人一台に対応した小・中学校の教室用机などの改善について伺う。</p>						田中学校教育部長
2 防災対策について	<p>市内の多くの小・中学校を指定避難所としており、被災者が学校施設で避難生活を送ることとなる。指定避難所である小・中学校では、備蓄品である食料や飲料水などの物資は校舎の中に配置する必要があると考える。学校によっては防災倉庫が設置されていないところもある。</p> <p>また、小・中学校に限らず、物資を適切に保管するためには、防災倉庫の日常的な維持管理も重要となるほか、備蓄品目も増え、スペースも不足することが想定される。</p> <p>そこで、以下2点伺う。</p> <p>(1) 本市の物資の確保状況や防災倉庫の維持管理の状況について伺う。</p> <p>(2) 防災備蓄の課題と今後の対応について伺う。</p>						小松危機管理監
3 発達支援教育について	<p>本市では、全ての児童・生徒を対象にした健やかな成長と発達を支援する教育上の営みが大切だとして、「特別支援教育」を「発達支援教育」と呼んでいる。発達支援教育の理念を「確かな子供理解により、一人一人の子供や保護者が教育上求めているものや必要なものを的確に把握し、それに対して適切な支援をしていくこと」とし、発達支援学級においても、この理念のもと、一人</p>						花井教育長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>一人に応じた支援を考え、充実を図っている。発達支援学級で学んだことが、子供たちの自立と社会参加につながり、将来の夢や仕事につながっていくことが重要であるとする。</p> <p>そこで、以下2点伺う。</p> <p>(1) 発達支援学級における児童・生徒の個性を伸ばす取組について伺う。</p> <p>(2) 発達支援学級に通う児童・生徒の自立や社会参加につながる取組について伺う。</p>	
<p>4 障害のある人への支援の取組について</p>	<p>障害のある人の家族から「親である自分たちも高齢になり介護が必要になった場合、子供をどのようにサポートしていけばいいか不安である。」という声がある。本市としては、障害のある人の家族の高齢化等に対応する事業として、障害者の自立に向けた独り暮らし体験の機会と場を提供する事業を令和2年にモデル的に実施し、令和3年から本格実施している。</p> <p>そこで、以下2点伺う。</p> <p>(1) 障害のある人の自立に向けた独り暮らし体験を含めた、地域生活支援拠点整備事業の取組状況について伺う。</p> <p>(2) 障害のある人の「親亡き後」の支援施策の周知について伺う。</p>	<p>山下健康福祉部長</p>
<p>5 公園施設の取組について</p>	<p>本市の都市公園の整備状況は、令和2年度末の調査では住民1人当たりの面積は8.30㎡となっており、全国平均の10.7㎡と比較して、低い水準となっている。そのため、整備水準を上げるよう、今後も整備が必要と考える。</p> <p>一方で、公園施設の中には遊具やトイレがあるが、中には老朽化が激しい施設も見られる。近年では小・中学校のトイレの洋式化が進む中、児童・生徒が利用する公園のトイレの整備も併せて進めていくべきであるとする。</p> <p>また、公園は高齢者の運動やコミュニティーの場であり、子供たちの遊び場でもあり、子育て世代の憩いの場でもあり、最近ではペット好きの人にも多く利用されている。</p> <p>ペットの犬を自宅周辺の散歩だけでなく、リフレッシュのためにドッグランに連れていく人も増えている。本市は、政令指定都市における1000世帯当たりの犬の登録頭数が最多であり、ドッグランのニーズも高まっているとする。</p> <p>そこで、以下3点伺う。</p> <p>(1) 公園整備の現況と今後の整備の見通しをどのように考えているのか伺う。</p>	<p>奥井花みどり担当部長</p>

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>(2) トイレの洋式化や車椅子の人も利用できるトイレの設置について、どのように取り組んでいくか伺う。</p> <p>(3) 公園施設のドッグランの設置について、どのように考えているのか伺う。</p>	
<p>6 中山間地の森林について</p>	<p>東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会関連施設である有明体操競技場や選手村ビレッジプラザに天竜材を提供するなど、地産外商も進めているが、現状のF S C認証材は、市民にとっては、まだマイナーな存在である。地域材やF S C認証材の使用をより普及、拡大させるために何らかの行動を起こす必要があると考える。</p> <p>また、森林環境譲与税が令和6年度から満額譲与される予定である。こうした中、森林環境譲与税を計画的に活用していく必要があると考える。</p> <p>そこで、以下2点伺う。</p> <p>(1) F S C認証材の認知度向上について、県内外からF S C認証材が求められるための全国に向けたP R活動の方策を伺う。</p> <p>(2) 今後、譲与額の増加が予定されている森林環境譲与税をどの事業に重点的に活用していくのか伺う。</p>	<p>清水農林水産 担当部長</p>
<p>7 ビーチ・マリンスポーツについて</p>	<p>ビーチ・マリンスポーツ事業化計画では、江之島地区から奥浜名湖の三ヶ日地区まで、広い範囲で大会誘致ゾーンや観光交流ゾーンが計画されている。本年3月11日の私の一般質問の今後の整備スケジュールについての答弁では、「三ヶ日地区をはじめとした奥浜名湖沿岸におけるマリンスポーツに必要な施設整備について検討を進める。」との回答であった。既にセーリングなどの競技は、全国大会が奥浜名湖沿岸で開催されている。ビーチ・マリンスポーツの聖地のシンボルとなる施設を、新たに奥浜名湖沿岸の三ヶ日地区で検討してはどうかと考える。</p> <p>また、ビーチ・マリンスポーツの聖地とするためには、セーリングやウインドサーフィンなどをポピュラーなスポーツに導いていく必要があると考える。</p> <p>そこで、以下2点伺う。</p> <p>(1) ビーチ・マリンスポーツの推進に向けた施設整備についてどのような検討がなされているか、進捗状況を伺う。</p> <p>(2) 奥浜名湖エリアに、どのような競技の大会やスポーツ合宿を招致する可能性があるのか、その考えについて伺う。</p>	<p>中村文化振興 担当部長</p>